

岸由二・柳瀬博一著

『「奇跡の自然」の守りかた 三浦半島・小網代の谷から』について

景平恵雄 (37工)

著者の岸由二 (1947年生) は横浜市立大学文理学部生物科を出た進化生態学の研究者ですが慶應義塾日吉キャンパスで生物学を教えていた時代に同僚の先生から、「三浦市に源流から海にいたる緑濃い森がある。全面開発の心配があるので保全に協力してほしい」と頼まれて1984年に初めて「小網代の谷」を訪問して、そこに奇跡の自然を発見し、以来その保全再生を中心的に推進し、現在もNPOの代表として活動を続けています。共著者の柳瀬博一は慶應大学の学生の時から岸由二の活動に参加し現在は同じNPOの副代表を務めています。

「小網代の谷」は三浦半島の先端の小網代湾に面した面積70 haの小さな谷です。中央の谷を源流とする長さ僅か1.2キロの浦の川が北の谷、南の谷の支流を集めて小網代湾にそそいでいます。そこは森あり谷あり湿地がある典型的な流域生態系です。さらに河口には南北の岬につつまれた3 haの見事な干潟生態系があります。2001年の調査によると「小網代の谷」には2,000種類に及ぶ多種多様な生物が生息しています。大都会の東京から僅か2時間の近郊に家や道路などの人工物が一切ない丸ごと自然が存在することは奇跡的です。

この本は、岸由二が「小網代の谷」に係ることになった始まりから、国による保全が確定するまで約20年、それから一部の生態系を再生して2014年に一般に公開するまで約10年、合せて約30年に亘る保全再生の歴史です。本の構成は第1章奇跡の流域「小網代」を発見、第2章オンリーワンの「奇跡の谷」を守りたい、第3章小網代をサンクチュアリに、第4章開園に向けて、第5章小網代の谷の未来、ですが主な出来事を添付の年表に纏めました。

「小網代の谷」の守りかたは、浦の川の水循環を中心に考える「流域思考」の保全です。放置されて暗黒世界になった森の常緑灌木類を伐採し、ササや外来種の植物を除去して日光が十分に入る明るい森に戻してシダの谷を再生する、乾燥して群生したササを刈り取った後、水の流路を変えて地表の水位を上げることによってアシやガマの湿地を再現するなど、人が手を加えることによって、「小網代の森」が本来持っている流域生態系や干潟生態系を再生していきます。環境の再生、生物多様性の回復が実現したのはまだ一部であり「小網代の谷」全体に及ぶにはこれから20年の年月が必要なるかもしれないと結ばれています。

三浦半島には子供に頃から何度も行きましたが、この本によってはじめて「小網代の谷」を知り、その保全活動に感動しました。4月に訪問しましたがまた訪れたいと思っています。

以上

添付：「小網代の谷」保全の年表 (1983-2014)

年 月	岸由二の保全活動と関連事項
1970	・ 小網代地区市街化区域指定
1983	・ 環境問題を考える市民団体 「ポラーノ村を考える会」 活動始まる。 代表の藤田祐幸は慶應日吉で物理学を教える岸由二の同僚。
夏	・ 藤田祐幸から「三浦市に源流から海にいたる森がある。全面開発の

		心配があるので保全に協力してほしい」と頼まれた。
1984	11月18日	・岸由二が初めて小網代の谷を訪問し奇跡の流域生態系を発見。
1985		・保全戦略を「流域1番、希少種2番」に決定、ポラーノ村の仲間から強い支持を得た。 ・慶應義塾経済2年 柳瀬博一が有志に参加。 ・京浜急行電鉄が「三戸・小網代開発構想」を発表（小網代の森と周辺の約168haにゴルフ場・農地・住宅・道路・鉄道延伸の5点セット）
1987	11月	・上記の三戸・小網代開発構想の代替案として、小冊子「小網代の森の未来への提案」（ポラーノ村を考える会）出版。 ・小網代の森、湿地、干潟、海の生態系のまとまりの価値を解説した「いのちあつまれ小網代」（岸由二）出版。
1988		・神奈川県「ゴルフ場開発に関する特別解除の方針」検討
1989	2月20日	・県知事にゴルフ場解除反対の約3万人の書名を届け出（ポラーノ村会員と連携市民団体、労働組合、市民ネットワークなど） ・意見書「小網代は森と干潟と海」の作成と出版、意見集約の窓口は「小網代を支援するナチュラリスト有志」（代表岸由二） ・小網代中央部70haを中心にした100haを「小網代の谷」と呼びなおしてその全体の総合的な保全を呼び掛けた。
	3月末	・神奈川県「ゴルフ場開発規制の措置の基本方針」発表、許可条件に「自然環境の保全を要する地域については立地を規制する」の規定。
1990	6月	・行政の保全勢力を応援する市民組織「小網代を守る会」を創設、活動方針①特定の政治イデオロギーに制約されない②小網代の谷のクリーンアップや自然観察を進める。（特にアカテガニ）
	8月27日 ～31日	・磯子プリンスホテルで開催された国際生態学会議（神奈川県後援）で「小網代を守れ」（Save the Koajiro）のポスター発表。 ・26日、国際生態学会議のメンバーを小網代に案内、衝撃的コメント「この自然は同じ緯度で地球上にここだけかもしれない」。
	11月5日	・NHK「地球ファミリー」放映、岸由二出演、タイトルは「森から海へ小さなカニの大旅行：三浦半島・アカテガニの住む谷」。
1991	春	・小冊子「国際生態学会議で得たコメント」出版
	7月末 夏	・京浜急行電鉄社長の名代と初めて会って、1987年の提案を説明した。 ・「小網代の森を守る会」のカニパトロール<カニパト>開始、現在「（公財）かながわトラストみどり財団」の事業として継続。 ・神奈川県環境部が市街化区域についても「地域環境評価」を開始
1993		・小網代中央の谷で大きな土砂崩壊発生。
1994	7月22日	・「ポラーノ村を考える会」（代表藤田祐幸）解散、活動の主体を「小網代の森を守る会」（代表山本紀子）が引き継ぐ ・神奈川県知事に協働提案「小網代自然教育圏/構想 教育リゾートの視点をサポートとした小網代集水域の総合的な保全を提案します」（「小網代の森を守る会」と「小網代を支援するナチュラリスト有志」）
	7月24日	・冊子「関東最後の集水域サンクチュアリ 三浦半島・小網代を歩く夏の自然散策ガイド」完成

1995	3月28日 5月 6月 11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神奈川県 小網代の森・中央の谷72ha保全方針発表 ・ 神奈川県 「小網代の森保全対策検討会」 開設、岸由二が委員に。 ・ 多摩三浦丘陵は「いるか丘陵」の提案 ・ 神奈川県「小網代の森の保全・活用構想」報告
1997		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「いるか丘陵の自然観察ガイド」（岸由二編）発行 ・ 神奈川県の県基本計画に「小網代保全」の方針が明確に記載
1998		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「小網代野外活動調整会議」 発足（2005年からNPO）
2000		<ul style="list-style-type: none"> ・ 三浦半島公園圏構想検討委員会の設置（委員長 岸由二）
2001		<ul style="list-style-type: none"> ・ 論文「小網代におけるアカテガニ放仔活動の時間特性について」公刊
2002		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「調整会議」が県の資金補助を受けて5年間の環境再生作業を開始（小網代の森のパトロール、アカテガニ・ビオトープの整備回復）
2005	6月 9月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小網代野外活動調整会議をNPO法人化（岸由二代表理事） ・ 国交省国土審議会・小網代の森70haの保全が確定
2006		<ul style="list-style-type: none"> ・ 各方面からの支援獲得（全労災、富士フィルム、トヨタ、三井物産、日本財団、地球環境基金など）
2007		<ul style="list-style-type: none"> ・ （公財）かながわトラストみどり財団との2人3脚スタート
2009		<ul style="list-style-type: none"> ・ 台風18号で中央の谷に大規模な洪水発生。
2010	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県国による買収完了、NPO・県による本格整備へ。
2011	3月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大震災・小網代の森は2mの高波によって大きな被害を受けた。 ・ 神奈川県・三浦市「小網代近郊緑地特別保全地区（65ha）」指定、整備のため立ち入り禁止に。 ・ 神奈川県、「かながわトラストみどり財団」、「NPO小網代野外活動調整会議」の3者で環境の管理・整備を開始。
2012		<ul style="list-style-type: none"> ・ 散策路設置方針決定（階段、ボードウォーク、テラス）、NPO調整会議がコースの設定を提案 ・ NPO調整会議の自然回復作戦；シダの谷の回復、真ん中湿地の再生、下手の湿地化、水系の再生
2013		<ul style="list-style-type: none"> ・ 神奈川県 「小網代の森保全利活用協議会」を組織
2014	7月19日 7月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設完成式典（全長1300mの散策路の完成） ・ 一般オープン ・ 「NPO小網代野外活動調整会議」が保全作業を続けている。 毎月第3日曜日一般の人も参加できる。

(201812NK)